



FUNABASHI LIONS CLUB NEWS

ライオンズクラブ国際協会 333-C 地区 船橋ライオンズクラブ会報

vol.8

発行者：船橋ライオンズクラブ会長 L 高橋弘明 編集者：IT・PR 委員 L 斎藤真治 平成 25 年 4 月発行

大爆笑だった船橋寄席



3月17日船橋寄席がフローラ西船で開催されました。桂米福師匠とバイオリン漫談のマグナム小林氏、前座の雷門音助氏が会場を笑いの渦に巻き込んでくれました。当初の予定より沢山のチケットが売れて、特に食事付きのプレミアムチケットの販売数が伸びて、会場側が食事の準備を出る出来ないというバタバタする程でした。来客の中には落語が初めてという方も多く、大変喜んで頂いたと実感しております。

内容は、まず前座の雷門音助氏が落語を一席、続いて米福師匠が一席、ここでマグナム小林氏のバイオリン漫談を披露頂き、トりに米福師匠の落語で幕を下



ろしました。その後は会場を移動して食事と飲談の時間です。米福師匠はこちらがお願いしていないにも関わらず、自ら各テーブルを廻り、皆様に話しかけて頂いたのには驚きを隠せませんでした。「師匠」と呼ばれる方がそのような行動をされるのは、あまり例の無いことだと思えます。米福師匠の人も皆様に受け入れられたことでしょう。その甲斐もあってかサイン色紙のオークションでは中々の高値が付きました。今回の収益から10万円を八丈島のサッカー少年達に贈る予定であります。

皆様のご協力に感謝致します。今後も恒例行事として続けて行きたいと思えます。



河津桜が開花



昨年船橋運動公園に植樹した河津桜が少しだけ花を付けています。もうすぐ菖蒲の花が咲くでしょう。時間にゆとりがある方は、たまには足を向けて下さい。運動にもなるし心が癒されますよ。

改めて被災地との交流を

あの震災から2ヶ年を経過した去る1月7日〜8日、被災地釜石を巡察した。惨禍の現状は、あの被災の日から全く変わっていない。国の方策や県や、市の復興に対する施策や指導方針が試行錯誤する中で、復旧、復興の道筋が明確ではない事分かった。被災の中で釜石小学校の184人が自分たちの判断で、助け合って高台に避難して、全員

が無事であったことは周知の通りであるが、その生徒諸君の代表と会うことが出来た。常日頃から学校内で津波に対する避難訓練が徹底していたことが分かる・・・があの惨状を前にして先生や親の指示待ちではなく、子供達の咄嗟の判断により実践した事を高く評価したい。

避難した高台から、自分の家や家族が激流に流されている光景を目にした子供達のシヨックは言語に尽くし難いものがあっただろう。

私は被災の直後、商工会議所メンバーを引率して大船渡を視察したが、その被災の実態は全く同様であるものの、釜石小学校や釜石中学校の避難のあり方に瞠目する。『自分の命は自分で守る』という指導が徹底されていたことである。このことは教育以前の子供達の素直な心と勇氣ある実践にほかならない。因に釜石地区はリアス式海岸で入江港湾が多く、殆どの集落が消えてしまったという。

街の復興は諸にいたばかりであり多年を要するであろう。地元クラブとのサクセスとライオンズの実践はこれからが正念場である。

わがクラブも高橋会長の時こそ、メンバー有志を集い釜石を訪問し、地元の釜石LC、大槌LC、陸中山田LCとぜひ交流を持つステージの構築を希っている。

寄稿 元ガバナール小西宗仁